東南アジアの自然と農業研究会　第174回例会

島の生物多様性とともに生きる：ソロモン諸島における自然の利用・保全・破壊

古澤　拓郎　氏

（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

ソロモン諸島ロヴィアナは生物多様性豊かな土地であり、村に暮らす人々はそれを利用した暮らしを営み、そして自然についての豊富な知識を持っている。その一方で、外資企業による森林伐採など開発が徐々に進んでおり、それを積極的に誘致してきたのも、その人々である。自然を知り利用する人々が、なぜ自然の破壊を推進することがあるのか。本発表は、この単純な疑問がきっかけになり行ってきた、人類生態学、民族植物学、フォークエコロジー、植生調査、民族誌的研究、衛星画像解析、さらに健康科学を取り入れた学際融合型研究の報告である。調査の結果、村では環境の多様性が人々の生活ニーズを満たし、また人々による利用が多様性の創出と持続に貢献しているという人間―環境相互作用があることや、人々の自然認識の中に人間―植物―動物という異なる種間の生態学的連鎖が見出されること、その一方で町の社会経済状態は島の生態系サービスを代替するレベルではないことなど、多くの発見があった。その結果をもとに、ロヴィアナの人々にとっての保全倫理について論じる。さらに自然環境だけではなく、人間社会や、さらには個人の中にも多様性があることに目を向けることの、学術的・社会的重要性を指摘する。最後に、約15年間の変化を踏まえ、ソロモン諸島における生物文化多様性の将来について考えたい。

日 時

2016年2月5日（金）16:00～18:00

場 所

京都大学総合研究2号館4階
オープンカンファレンスルーム（AA463）

＊場所が通常と異なりますのでご注意ください。

＜お問い合わせ先＞
小坂 ： 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
kosaka[at]asafas.kyoto-u.ac.jp
柳澤 ： 京都大学地域研究統合情報センター
masa[at]cias.kyoto-u.ac.jp